

【日系移民の歴史と日本語教育：日本語を巡る過去と現在】

現在のブラジル日本語教育の概要 —公教育への日系コミュニティの貢献—

吉川 一甲 真由美 エジナ

要 旨

ブラジルの日本語教育は、日本移民開始時から始まった。移民初期の日本語教育機関は、日系人が運営する協会の日本語コースと、教師が一人で経営する日本語教室であった。しかし、現在、公教育機関での日本語コースも存在するようになり、ブラジルでの日本語教育は外国語教育として規模が拡大している。本稿では、国際交流基金が実施する「2015 年度海外日本語教育機関調査」及び、国際交流基金サンパウロ日本文化センターが行った「2017 年ブラジルの公教育機関—初等・中等・高等教育—」に基づき、ブラジルにおける日本語教育の現状について述べる。

キーワード

日系団体 公教育機関 日本語教育機関調査 日系／非日系

1. はじめに

1.1 目的

本稿の目的は、国際交流基金が3年ごとに実施している「海外日本語教育機関調査」（以下 JF 調査）と国際交流基金サンパウロ日本文化センター（以下 FJSP）が行う「ブラジルの日本語教育機関—初等・中等・高等教育」（以下 FJSP 調査）のデータに基づき、当初日系子弟のためのものであったブラジルの日本語教育が、現在どのようにブラジルの公教育機関へ広まっており、このプロセスに日系人がどのように関係してきたかを述べることである。

1.2 日本語教育機関の分類

ブラジルの日本語教育機関は、「公教育機関」と「公教育以外の機関」の2種類に分けられる（表1）。

表1 教育段階、教育機関の分類¹

	教育段階	教育機関の分類
I. 公教育機関	A. 初等・中等教育	a. 公立学校 (州立/市立)
		b. 私立学校
	B. 高等教育	c. 連邦大学
		d. 州立大学
		e. 私立大学
II. 公教育以外の機関		f. 日系団体 g. 私塾 h. 語学学校 i. その他の機関

吉川 (2017: 38) より抜粋

その教育段階と教育機関の分類は以下のとおりである。

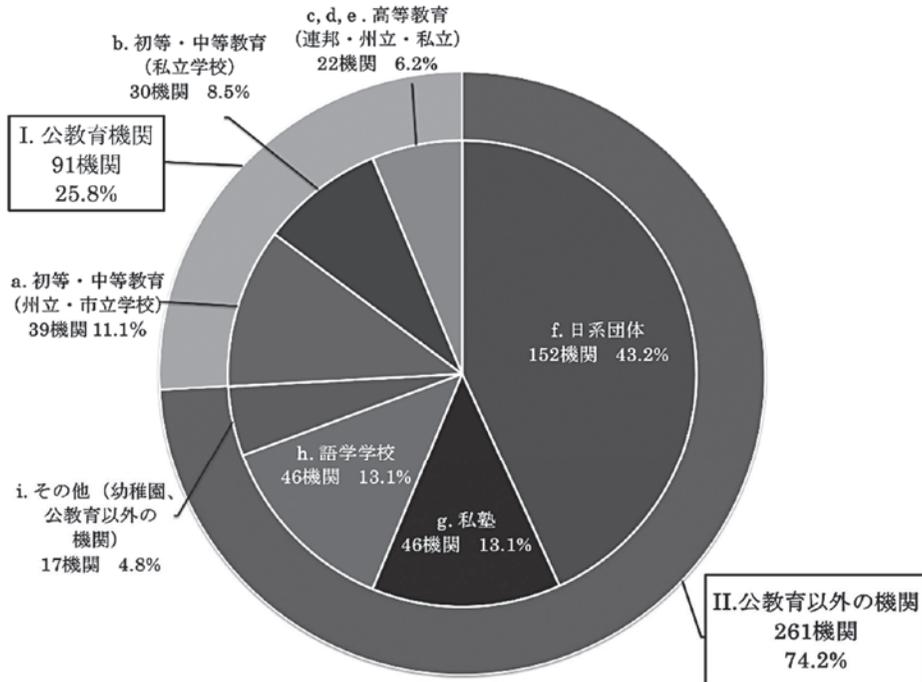
- I. 公教育機関：ブラジルの教育制度に則り、初等・中等・高等教育を行う機関である。
- A. 初等・中等教育：初等教育は6-10歳まで、中等教育は11-17歳までの教育段階を指す。
- a. 公立学校：ブラジルの教育制度に則り、各州教育局、または市役所が設置・管理・運営する初等・中等教育機関を指す。公立学校には、州教育局が運営する州立学校と、市が運営する市立学校が存在する。
- b. 私立学校：ブラジル教育省が定めた学校教育法に基づいて設置され、認可された個人、または法人経営の初等・中等教育機関を指す。
- B. 高等教育：大学を指す。大学は以下の通り分類される。
- c. 連邦大学：ブラジル教育省が設置・管理・運営している高等教育機関である。
- d. 州立大学：州教育局が設置・管理・運営している高等教育機関である。
- e. 私立大学：ブラジル教育省が定めた学校教育法に基づいて設置され、認可された法人運営の私立の機関である。日本語は一般成人向けの公開講座として提供されている。
- II. 公教育以外の機関：公教育以外で日本語コースを提供している機関を指し、機関数全体の74.2%を占める。日本語コースを実施する「公教育以外の機関」は以下の通り分類される。
- f. 日系団体：日系人によって設立された団体である。その中で日本語コースも提供されている。もともと日系人が集まる場として組織された団体であることから、日本語コースもその団体の会員である日系人の子弟のために提供されていた。当初、学習者のほとんどが日系人であったが、90年代から非日系の学習者も増えている。
- g. 私塾：個人経営の日本語学校/教室である。教師が一人で運営する日本語学校/日本語教室である。私塾のほとんどが日系人教師によって経営されており、学習者の中にも日系人が多い。
- h. 語学学校：英語、スペイン語、日本語など、外国語を教える民間の機関である。日系団体とは対照的に、ほとんどの機関が非日系によって設立・運営されている。

ブラジルでは英語やスペイン語コースが多いが、最近では、外国語コースとして日本語も提供している学校が現れてきた。

- i. その他の機関：幼稚園、定年退職した公務員などを対象に無料で日本語コースを提供しているブラジルの政府機関などである。その他、日本政府機関が運営母体である、FJSP が実施している JF 日本語講座も含まれている。（吉川、2017: 38-40）

ブラジルで日本語教育が始まった当初は、公教育機関以外の f. 及び g. の日本語コースしか存在しなかった。現在でもこの種類のコースが多いが、1990 年代より公教育機関での日本語コースが急増し、2015 年度 JF 調査ではブラジルの日本語教育機関全体の 25.8% を占めるようになった。公教育機関以外の機関でも、日系団体や日系人とは関係のない、表 1 の h. と i. に分類される機関も、以前存在しなかったが、それぞれ、全体の 13.1% と 4.8% 占めるようになった（図 1）。なお、学習者数は全体で 22,993 人であるが、公教育機関は 10,675 人（全体の 46.4%）、公教育以外は 12,318 人（全体の 53.6%）である。

公教育機関の日本語コースも日系団体や日系人とは関係していないが、初等・中等教育機関の私立学校の日本語コースに関しては、2017 年 FJSP 調査のデータに基づく、設立者、または校長が日系人である場合が多い。



吉川 (2017) を元に編集

図 1 「2015 年度 JF 調査」データによる機関数 (352 機関)

2. 公教育機関以外の日本語コースについて

本章では、公教育機関以外の日本語コース、すなわち、日系団体や日系人教師が設立・運営する日本語コースと私塾について述べる。

1980年代まではほとんどの機関が f と g に分類されたものであった。丹羽（2004: 168-170）でも、「1980年代までは、大学を除く、教育機関のほとんどは日系人が経営するものでした。」とある。

細川（2017: 150）は、日系団体の日本語コースについて次のように記述している。

- ・子供たちの教育のために「日本語学校」を用意し、それが会館（日系人が集まる場）づくりのきっかけになった場合が多い。
- ・生徒が少なくなり、（子どもがいない、興味を持たない、先生がいない等の理由）、閉鎖したところが70%である。
- ・日本的習慣、日本人の魂までを教えたいという日本語教育への思い入れが強いと難易度が高くなるため、ただの語学学校化することで生徒を増やす方策をとるところも出てきた。
- ・教師の給料が安いために手数が少ない。

2012年から2015年の間、以上の特徴を持つ日系団体の日本語コースが25コース閉鎖しており、閉鎖機関全体（60機関）の41.7%を占めている。しかし、日本語学習者が多い日系の機関も存在する。その中にアマゾン州マナウス市の「西部アマゾン日伯協会」がある。2015年度JF調査では学習者数が650人、教師数が25人であった。本校の責任者によると、現在、日本にルーツを持つ学習者は全体の20%程度である。逆に教師陣は80%が日系人で、日本での出稼ぎ経験があるものや移民の子弟などを中心に構成されている。

私塾に関しては、個人経営の日本語学校／教室であり、その多くが、教師が一人で運営する小規模の日本語コースである。この種類の日本語コースも、2012年から2015年の間で閉鎖した数が14コースであり、閉鎖機関全体の23.3%を占める。

2015年度JF調査の結果によると、公教育機関以外の機関で日系団体や日系人教師が経営する日本語コースは減少傾向にある一方、公教育機関の日本語コースが増加している。しかし、日系団体や私塾の日本語コースは減少傾向にあるものの、増加している公教育機関でも日系人の日本語教師はまだ多く、これからも日本語教師を目指す人材を育てていくと思われる。

3. 公教育機関の日本語コースと日系人・日系団体

本章では、公教育機関の日本語コースと、これらの機関の設立のために貢献した日系人、日系団体の関わり方について述べる。

公教育では、1990年代よりサンパウロ州とパラナ州の州教育局のプロジェクトとして言語センターが設立され、初等中等教育機関の日本語コースがこの時期から増加してきた。高等教育機関では、サンパウロ大学（USP）が1964年に日本語専攻コースを設立して以来、1980年代から徐々に大学での日本語コースが増加し、「2015年度JF調査」では全体

の6.2%を占めるようになった。

3.1 初等・中等教育の日本語コース

初等・中等教育機関の日本語コースには表1の a. 公立学校と b. 私立学校のコースが存在する。

3.1.1 公立学校

前述したように、1990年代までは公教育での日本語コースはほとんど存在しなかった。公立学校のコースでは、1990年にサンパウロ州及びパラナ州教育局が運営する、複数の州立学校の言語センターで提供される日本語コース(以下、CELとCELEM)が設立された。2015年度JF調査によると、それぞれ24校と8校の州立学校で提供されている。

サンパウロ州のCELは、南米共同市場(Mercosul)の発足により、ブラジルと近隣のスペイン語圏諸国との関係が強化されたことから、州立学校の生徒にスペイン語コースを提供するために、1987年に設立された言語センターであった。その後、地域の要望に応じ、他の言語も提供するようになった。CELの日本語コースは1990年から提供されるようになったが、初めて開講されたのは日系コミュニティが活発な地域のヘジストロ市であった。Silva(2017: 59)によると、ヘジストロ市教育局支部の許可を得てファビオ・バヘット州立学校の敷地内にCELの建物を建てることになり、その費用を日系コミュニティが提供した。当時、採用されたCEL日本語教師は、州立学校の小学校の日系教師であったが、ヘジストロ市の日系団体が経営する日本語コースの教師でもあった。また、CEL日本語コース設立のために州教育局への働きかけにも当時の日系の政治家及び、日系コミュニティの有識者が関わっている。2010年に、サンパウロ州教育局の依頼で、国際交流基金サンパウロ日本文化センター(以下FJSP)がCEL日本語コース用の教科書『ことばな』を作成した。この教科書は、サンパウロ種教育局の予算で印刷されており、CEL日本語コースの学習者に無料配布されている。同教育局によると、教科書の無料配布がCEL日本語コース数と学習者数の増加に繋がった。(吉川、2017: 48)

また、パラナ州のCELEMでも1990年に日本語コースが開講されている。しかし、CELとは異なり、CELEMではその地域の要望により言語が提供されるようになった。日本語は、日系人が多いパラナ州北部のマリンガ市で初めて提供され、現在ではクリチバ市にも日本語コースが存在する。CELEMでの日本語コースを提案したのは筆者が当時勤務していたマリンガ州立大学の日本学研究所²コーディネータのヘナット・カルドーズ・ネリ氏(Renato Cardoso Nery)であった。本大学の卒業生たちの就職先として考えられたのが、CELEMでの日本語コースであった。現在、マリンガ市のCELEMでは日本語コースがまだ継続しているが、CELEM日本語コースは、パラナ州政府の予算の関係で規模が縮小している。FJSP作成の『ことばな』も使用許可を与えようとしたものの、州教育局に印刷代の予算がないことが原因で印刷ができないのが現状である。

2011年にブラジリア特別連邦区でも、連邦区種教育局が運営する日本語コース(以下CIL)が設立された。CEL、CELEMと同様、複数の州立学校の生徒たちに日本語コースを提供するプログラムである。最初は4ヶ所の言語センター(全8ヶ所にCILの言語センターが存在する)で日本語コースが提供されていたが、在ブラジリア日本国大使館の支援

と尽力で6ヶ所までに増加し、日本政府機関からの支援も受けている。学習者数も徐々に増加し、教師も正式に採用され、ステータスが安定している。また、ブラジリア大学(UnB)では、日本語専攻コースの一環として、教育実習が行われており、CILの日本語教師は、全員このコースを受け、教員免許を取得している。大学については3.2で述べる。

2016年にアマゾナス州マナウス市でブラジル初の公立、全日制日本語バイリンガル校が設立された。マナウス市は多くの日本人が移住した都市である。1967年にゾーナ・フランカ(輸出加工区)として税制優遇が措置され、日本の大企業が進出し、大規模工場が次々に設置された。近年では、そこに職を求める若者からの日本語教育の需要が高まっている。「ジジャウマ・ダ・クニーヤ・パチスタ」(Escola Estadual de Tempo Integral Bilingue Professor Djalma da Cunha Batista)は、以前一般的な州立初等教育学校として運営されていたが、バイリンガル校の全日制³として新しく生まれ変わった。本校には日本の中学生に当たる6~9年生が通い、全校生徒1100人を抱える。大半の生徒が非日系である。外国語として日本語の授業を取り入れ、さらに午後から理科と算数用語を日本語で教える授業を行っている⁴。教師も日本語を教えるための教員免許をアマゾナス州連邦大学(UFAM)で取得している。また、筆者が担当した「2018年度JF調査」では、マナウス市の市立学校の中等教育の生徒を対象に、言語センターが2ヶ所に設立され、ここでもUFAMの卒業生が日本語コースを担当していることが分かった。

また、市立学校では、2008年より、ブラジル北東地方のペルナンブッコ州リモエイロ市に日本語の課外コースが開講された。本コースは、世界救世教(MOA)⁵のプロジェクトとして開始し、設立当時、ペルナンブッコ州の州都であるヘシフェ市(リモエイロ市より東部へ約80キロ)より、日本語母語話者のボランティア日本語教師が1週間に1回出張し、日本語を教えていた。その後、リモエイロ市の市役所の支援でコースが継続され、現地の日本語教師とチューターが日本語コースで教えるようになった。2017年FJSP調査では学習者数が990名にも増加し、その後も増加しているが、市役所の予算削減のため、いつまでコースが継続されるかが分からないとの情報も得ている。2017年までは、現地の日本語教師は、市役所の支援を得て、ヘシフェ市にある日系団体が運営する日本語コースに日本語を学びに行っていた。つまり、リモエイロ市には非日系人の教師が日本語を教えているが、そのサポートをしているのは日系団体である。

なお、2017年FJSP調査によると、公立学校の日本語教師の47.4%(57人中27人)が、日系団体や私塾で日本語を学んだことのある日系人である。このように、公教育機関での日本語コースは日系団体とは直接繋がってはいないが、この日系団体や私塾など、日系人が関わっている日本語コースや日本の機関が公教育機関での日本語コースの設立、増加と継続に貢献していると言える。

3.1.2 私立学校

本項では、「2017年FJSP調査」を実施した際に取得した情報に基づき私立学校の日本語コースについて述べる。

私立学校の日本語コースの設立には様々な経緯がある。以下、その経緯を記述する。

- ・経営者が日系人であるので、日本語コースが提供されている。
- ・もともと日系人が設立した施設(学生寮、花嫁学校など)であったが、需要がなくな

り、その建物を初等・中等教育の学校として利用し、日本語が外国語の科目として取り入れられている。

- ・もともと日本語学校であったが、初等・中等教育まで機関を拡大し、日本語コースを学校の科目として残した。
- ・日本の宗教団体が経営している初等・中等教育の学校であり、日本語が外国語科目として取り入れられている。
- ・日系団体が運営する初等・中等教育の学校であり、日本語が外国語科目として取り入れられている。
- ・ブラジルの初等・中等教育機関に日本語教師、または公教育機関以外の語学学校が日本語コースを取り入れるように交渉した。
- ・学校の周辺に日系人が多く住んでいるため、校長の判断で日本語コースが取り入れられた。

また、教師に関しても、同調査によると、90.3% (62人中56人) が日系人である。私立学校には日系人経営の学校や日系団体が運営しているケースが多く見られ、教師は、日系・非日系を問わず、日系団体や私塾で日本語を学んだ人だと思われる。

3.2 高等教育の日本語コース

本節では、「2017年 FJSP 調査」で取得した情報に基づき、高等教育機関の日本語コースについて記述する。

高等教育機関の日本語コースには表1の c. 連邦大学、d. 州立大学と e. 私立大学のコースが存在する。コースの種類は、日本語専攻、日本語専攻以外の学部生に選択科目として提供される日本語コース、一般の人に提供される公開講座である。日本語学科（日本語専攻）は8大学で提供されているが、その中で5大学が連邦大学であり、3大学が州立大学である。選択科目としての日本語コースは2機関で提供されており、1機関が連邦大学であり、1機関が州立大学である。また、公開講座としての日本語コースは、連邦大学、州立大学、私立大学20機関で提供されている。

以下、高等教育機関で初めて日本語専攻コースが設立された経緯から、どのように高等教育機関で日本語コースが増加してきたか、また日系団体及び日系人が高等教育機関で日本語コースにどのように貢献してきたかについて述べる。

ブラジル初の日本語専攻コースは1964年に設立された。日本語コースを学部のコースとしてサンパウロ大学 (USP) に導入したのは鈴木悌一教授である。鈴木 (2007: 426-427) は次のようにその経緯を記述している。

「...しだいにコロニア一辺倒の傾向を強めていくのを見限った悌一はつぎの目標はコロニアを超えた向こう側—すなわちブラジルの社会に新しい試練と可能性の舞台を見出すことであった。(中略) 一九六二年、悌一が実態調査の仕事に没頭していたころ、ときのサンパウロ大学文理学部のエウリピデス学部長 (Dr. Eurípedes Simões de Paula) の提案による東洋学科の開設案が大学令によって可決された。(中略) 翌年六四年に、日本語

が開講され、(中略)日本語講座は、サン・パウロ大と東京外語大との協定によって、東京外大からポルトガル語学科卒の教師が派遣された。」

本コースの卒業生たちは、就職先としてはブラジル人を対象に日本語を教える語学学校である日伯文化連盟⁶や日系団体の日本語コースなどがあつた。しかし、諸事情で日本語とは関係のない職に就く人が多かつた。また、大学講師として勤めることも考えられたが、当時はサンパウロ大学のほかに、日本語専攻が存在しなかつた。1996年に同大学で日本語・日本文学・日本文化の修士課程が設立された。現在8大学の日本語専攻のコースに勤めている講師の中でサンパウロ大学の修士課程を修了した人も増加してきた。筆者は1981年から1984年まで本大学に在籍したが、当時の講師と学生は、1人の学生を除き、全員日系人で、日系団体や私塾で日本語を学んだ経験のある人であつた。2017年FJSP調査のデータによると、講師陣は全員日系人であるが、学生は74.4%が非日系人である。現在、日本語教師になつたUSPの卒業生は、公立及び私立の初等・中等機関で日本語を教えており、非日系人の日本語教師も増加している。

1979年には、リオデジャネイロ州連邦大学(UFRJ)に日本語専攻の学部のコースが設立された。当時の講師として勤めたのは、サンパウロ大学を退学し、日本で大学を卒業し、日本語の修士課程を修了したブラジル人の講師であつた。卒業生の一部はリオデジャネイロ市周辺の日系団体や大学の公開講座で日本語教師を務めている。

そして、1983年にはブラジリア大学(UnB)の学部コースが設立された。本大学の講師もサンパウロ大学を卒業した講師で、日系人であるが、現在、学習者の88.8%が非日系人である。なお、3.1.1で述べたように、UnBで教員免許を取得した一部の卒業生はCILの日本語教師として雇用されている。

また、1986年には、日系人人口が少ないリオグランデドスール州連邦大学(UFRGS)の日本語・ポルトガル語翻訳コースが設立された。この大学では、日本語コースが翻訳コースであるため、日本語の教員免許が取得できない。当時、講師を務めるのは2人の日系人講師であつた。Gaudioso(2017: 190)によると、本大学の日本語コースは、ブラジルの遺産で、マイノリティー言語である日本語を保持する役割を果たしている。また、当時、日本語が専門の講師がいなかつたため、国際交流基金が本大学に専門家を派遣し、講師向けの日本語教育の指導をしたとも述べている。現在、リオグランデドスール州連邦大学の日本語コースを卒業した学生の中で、ポルトアレグレ市周辺3大学(カトリック大学(私立)、ウニシノス大学(私立))の公開講座で日本語を教えている教師が十数名いる。この教師たちは、翻訳コースの卒業生ではあるが、国際交流基金が日本で提供する日本語教師研修にも参加し、日本語の教え方を学んでいると記述している。

1992年には、サンパウロ州立パウリスタ大学(Unesp-Assis)に日本語コース(専攻)が設立された。ここでもサンパウロ大学の卒業生が講師を務めた。本大学には、サンパウロ州の初等・中等教育機関の私立学校や州立学校の言語センター(CEL)で日本語を教える卒業生が約15名程度おり、日本語教師を多く育成している大学でもある。

2000年代に入っても、2003年にはリオデジャネイロ州立大学(UERJ)、2009年にはパラナ州連邦大学(UFPR)、2011年にはアマゾナス州連邦大学(UFAM)で日本語専攻

のコースが設立された。

UERJ のコースでは、UFRJ を卒業した人と、本大学で既に存在していた公開講座を担当していた日本語母語の講師が日本語専攻のコースの講師となった。そして、UFRJ のケースと同様、卒業後、日系団体や大学の公開講座で日本語を教える人がいる。

UFPR は、日系コミュニティーに所属する人が多いクリチバ市に位置している。現在、本大学の講師には USP と Unesp-Assis の日本語コース（学部）を卒業し、USP の修士課程を修了した講師が多いが、クリチバ市の他専攻（例：英語、ポルトガル語、言語学）出身の講師も勤めている。UFPR では、25 年間、Licenciar という外国語教師養成プログラムが実施されている。日本語コースもこのプログラムで日本語教師を養成している（Oliveira, 2017）。日本語教師としての就職を希望する卒業生は、現在クリチバ市の CELEM と日系団体の日本語コースで日本語を教えるケースが多い。

UFAM の日本語コースは 2011 年に設立された。アマゾナス州マナウス市には日系企業が集中しており、日本語の必要性があることがコース設立の決定打になったが、日本からの移民、特に高拓生⁷たちがマナウス市に残り、日系コミュニティーを築き、日本語・日本文化の普及と継承を行ってきた。この教師たちが日本語を教えるための教員免許を取得する場がなかったことも大学での日本語コースを設立する目的になった。UFAM の日本語コース設立は、在マナウス日本国総領事館、西部アマゾン日伯協会、高拓会の代表者が、アマゾナス州連邦大学の学長であったインデンベルグ・フロッタ氏（Hidemberg Frota）、副学長のジェルソン・ナカジマ氏（Gerson Suguiyama Nakajima）と会議し、日本語コースの必要性が確認された結果である。ジェルソン・ナカジマ氏は 2009 年度に国際交流基金が当時実施していた「アドボカシー招聘プログラム⁸」に参加したことがある。本プログラムに参加した後、国際交流基金サンパウロ日本文化センター（FJSP）を訪問し、以下のように報告している⁹。

「日本の教育制度に関して、日本の文部科学省で説明を受けたが、グローバル化のために、英語を小学校から取り入れることになったということや、日本の進学率が高いことを、データだけではなく、学校を見学して実感することができ、とても感動した。（中略）日本では、日本文化（茶道、相撲など）を体験することができた。UFAM で日本語専攻コースを開設する際には、日本語だけではなく、日本の文化について知ることが大切であることを伝えていきたいと考えている。」

また、アマゾン入植移民者の第 2 グループの入植 80 周年を記念する年である 2011 年度に UFAM での日本語専攻コースを設立する企画についても言及している。つまり、本プログラムは UFAM での日本語専攻コースを設立するためにとても重要な役割を果たしていると思われる。

日本語が選択科目として提供されている大学はサンパウロ州立カンピーナス大学（Unicamp）とブラジリア大学（UnB）の 2 機関である。Unicamp の講師は、設立当時からサンパウロ大学出身の講師が多い。また、UnB での選択科目としての日本語コースでは、

日本語学科の講師が講義を担当している。

なお、日本語が公開講座として提供されている大学の多くは私立大学であるが、日本語専攻が存在する連邦大学と州立大学でも日本語の公開講座がある。連邦大学と州立大学の日本語公開講座ではその大学の卒業生が日本語教師として勤めている場合が多いが、私立大学ではその大学の、日本語ができる、他専攻（言語学や英語など）の講師、または大学に採用された日本語教師が講座を担当する。筆者が以前勤めていたパラナ州立マリングア大学（UEM）について述べると、本大学で採用されていた日本語教師は、筆者を除く3名は他専攻の学位を取得した講師であった。日本語学習に関しては、全員、日系団体が経営する日本語コースで日本語を学んだ講師であった。本大学は、ブラジルで唯一日本語を入学試験に外国語の試験として取り入れた大学である。1988年と1989年の入学試験で日本語の試験を取り入れていた目的には、大学の言語センターで日本語を学ぶ、大学の入学試験をこれから受ける学習者たちが、入学試験に日本語の試験を受けるために同大学の日本語コースで日本語を学ぶことによって、日本語コースを活気づけることであったが、大学側の諸事情でその後、日本語の試験は実施されなくなった。初等・中等教育の州立学校の言語センター（CELEM）の初めての日本語コースを担当した教師も、マリングア州立大学で日本語を学び、入学試験で日本語の試験を受け、言語学コースを卒業した日系人の教師であった。

このように、公教育機関の日本語コースの設立には日系団体や日系人教師が経営する私塾で日本語を学んだ人が関わっていることが多い。

4. まとめ

高等教育の日本語コースの講師の多くが日系団体や私塾で日本語を学び、大学で日本語を専攻した卒業生が、公教育と公教育以外の機関で日本語を教えている実態が、2015年度JF調査、2017年FJSP調査実施期間中に把握したデータ、「南米日本語教育シンポジウム2017」の発表論集及び、各機関についての論文に基づいて描くことができる。

2章及び3章で記述した内容を以下のようにまとめる。

- ・1980年代までは日系団体と私塾の日本語コースしか存在しなかった。学習者の多くは日系人であった。
- ・1990年代から公教育の初等・中等機関の日本語コースが増加したが、その設立には日系団体や日系人の尽力が見られた。
- ・高等教育機関での日本語教育の設立には、日系団体、日系人、日本政府機関の貢献が見られる。
- ・日本語教師としての就職を希望する高等教育機関の卒業生は、公教育と公教育以外の機関で日本語を教えるようになっている。その中には、大学入学以前に日系団体や私塾で日本語を学んだ経験がある学習者もいる。
- ・日系人・非日系人の日本語教師と学習者については吉川（2017）にまとめてあるように、公教育全体では非日系学習者が78.7%を占めているが、教師の方は56.6%が日系人であり、過半数を占めている。特に、初等中等教育の私立学校では、96.1%が日系

人教師である。

また、本稿では言及しなかったが、日本で長年生活した人、保護者がブラジル日系人で日本生まれの人がブラジルに戻り、公教育以外の機関で日本語を教えているケースも見られるようになってきている。ブラジルの日本語教育を支えるには日系コミュニティと日本政府機関の貢献がおおいに必要であると考えられる。

注

- 1 詳細は吉川 (2017) を参照。
- 2 この大学の日本語コースは公開講座であり、大学生だけではなく、一般の人にも提供されている。
- 3 大半の公立校が午前午後の2部制をとるが、暫定措置令第746号により全日制学校振興策が徐々に実施される予定である。<http://portal.mec.gov.br/component/content/article?id=40361> を参照。
- 4 本情報は <https://www.nikkeishimbun.jp/2016/160225-71colonia.html> より抜粋。
- 5 世界救世教 (MOA) とは、大本の幹部だった岡田茂吉が1935年 (昭和10年) に立教した新宗教系の教団。ブラジルにも普及されており、信者がいる。
- 6 ブラジルで最も学習者数が多い日本語教育機関である。
- 7 高拓生とは、国土館高等拓植学校または日本高等拓植学校で学び、1931年より、アマゾナス州にあったアマゾニア産業研究所で実習を行ってアマゾン開拓を目指した人々のこと。詳細は以下のリンクを参照：<http://saopauloshimbun.com/%E9%AB%98%E6%8B%93%E7%94%9F%E7%A7%BB%E4%BD%8F80%E5%91%A8%E5%B9%B4%E2%91%A0/>
- 8 「アドボカシー招聘プログラム」は、国際交流基金が各国での日本語教育拡充の環境整備のため、教育関係者を日本へ招待し、日本の教育制度についての説明や学校訪問を行うプログラムであった。
- 9 情報源：ジェルソン・ナカジマ氏がFJSPを訪問した際の会議議事録から引用。議事録の作成者は本稿の筆者である。

参考文献

- 国際交流基金 (2017) 『海外の日本語教育の現状 2015年度日本語教育機関調査より』、国際交流基金
 国際交流基金サンパウロ日本文化センター (2017) 『2017年度ブラジルの日本語教育—初等・中等・
 高等教育』、国際交流基金サンパウロ日本文化センター
- 鈴木正威 (2007) 『鈴木悌一 —ブラジル日系社会に生きた鬼才の生涯—』、サンパウロ人文科学研究
 所
- 丹羽義和 (2004) 「ブラジルの日本語教育」ブラジル・ニッポン移住者協会 (編) 『ブラジル日本移民
 戦後移住の50年』、ブラジル・ニッポン移住者協会、pp. 168-170
- 細川多美子 (2017) 「多文化社会ブラジルにおける日系コミュニティの実態調査—中間報告」福島
 青史、吉川・一甲真由美エジナ (編) 『南米日本語教育シンポジウム2017—発表論集』、国際交流
 基金サンパウロ日本文化センター、pp. 148-158
- 吉川・一甲真由美エジナ (2017) 「ブラジルの日本語教育の現状」福島青史、吉川・一甲真由美エジ
 ナ (編) 『南米日本語教育シンポジウム2017—発表論集』、国際交流基金サンパウロ日本文化セン
 ター、pp. 37-60
- Brasil de Sá, Michele Eduarda (2012) O Ensino de Língua Japonesa no Amazonas. *Estudos
 Japoneses* 32, Faculdade de Filosofia, Letras e Ciências Humanas da Universidade de São
 Paulo. pp. 131-141.
- Gaudioso, Tomoko Kimura (2017) O Ensino de Língua Japonesa na Universidade Federal do Rio
 Grande do Sul. *Simpósio sobre o Ensino de Língua Japonesa da América do Sul-Anais*,
 Fundação Japão em São Paulo, pp. 185-191

Oliveira, Flávio Ricardo Medina; Azuma, Satomi Oishi (2017) Projetos da área de japonês da UFPR voltados para a licenciatura. *Simpósio sobre o Ensino de Língua Japonesa da América do Sul-Anais*, Fundação Japão em São Paulo, pp. 173-184

Silva, Otávio de Oliveira (2017) *O Centro de estudos de Línguas (CEL) na história do ensino de língua japonesa nas escolas públicas paulistas*. Dissertação de Mestrado (Letras) –Faculdade de Filosofia, Letras e Ciências Humanas da Universidade de São Paulo. São Paulo
Universidade Federal do Amazonas-Letras-Língua e Literatura Japonesa <<http://linguajaponesa.ufam.edu.br/historiadocurso/>> (2019年1月21日)

(よしかわ いっこう まゆみ えじな 国際交流基金サンパウロ日本文化センター)